

7月15日(金) 仲塾先生が注目した。

今日の記事

(↑先生からひとこと… 事件について、犯行の動機や手口などが明らかになっていますが、個人的には腑に落ちないところがたくさんあります。みなさんはどう感じていますか。)

読んでみて、印象に残った部分に線を引こう。

Q1: ここで述べられている「橙円の理論」とはどのようなものですか。

7月12日の 日本経済新聞より

Q2: 「黄金の3年間」とはどのような意味ですか。

Q3: 安倍元首相の事件については、世界中が大きく衝撃を受けています。自民党の他にどのようなところに影響があるとあなたは思いますか。

(Q1, Q2 の解答は下に記載)

は玉虫色の表現でおさめたもの、財源や年数を含めて予算規模を調整する必要がある。
防衛費だけではない。ロシアのウクライナ侵攻で国際情勢は激変した。台湾有事の可能性が取り沙汰されるアジアで中国、北朝鮮はどう向き合うのか、外交と安保政策の答えを出す時間が来る。
総裁選、衆院選、参院選と3連勝した首相を待つのは、党内の抵抗だ。当面、國政選挙はない「黄金の3年間」は、野党に政権を奪われる心配はなくなると同様だ。

雄首相（自民党総裁）に、高揚感はなかった。

盾なき政権運営

時に人事と政策の両面で自民党議員の要求が強まることが意味する。

なるとの自覚がじみ出る。

とりわけ盾となり、不満を吸収する悪役も引き受け、「決断と実行」は大平氏の盟友で、最大派閥のトップ保守グループの岸田政権にを長く務めた田中角栄元首相に対する動向は不透明になる。

こうした状況を身にしみて感じているのは、首相本人でもある。「人事と政策の推進で求心力を高める。

安倍さんと自分のやるべきことは同じだ」「俺は強引なやり方は柄じゃないから

(秋山裕之)

参院選勝利 岸田政権の宿題

▶1

安倍氏失った自民

なった。どうやって安定をつくるのか、考えないといけない」。首相が漏らした「もう一つの中心」こそ、「聞く力」を前面に出し、凶弾に倒れた安倍晋三元首相だった。

首相は政権運営にあたり、宏池会の先輩である大平正芳元首相が唱えた「橙円の理論」を参考にしてきた。二つの中心がある方が、二つよりも安定するとの考え方。その一つが行政の長である自分で、もう一つが欠かせないからだ。

安倍氏との協調を軸に政策課題の落としどころを探つ、「もう一つの中心がない」と漏らす言葉が意味する。

安倍氏は財政政策、防衛費の扱いなどで注文をつけ立てる。ある種面倒な相手見立てる。一方で党内議論を経て決まった物事については、首相に批判的な議員や勢力を抑える「盾」の役割も果たしてきた。

首相自身、何度も安倍氏の事務所に足を運んで「内閣の要だった。

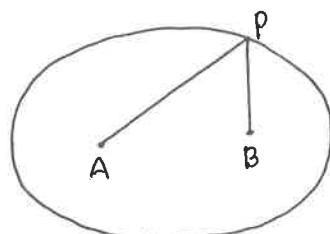
た。二つの中心がある方が、二つよりも安定するとの考え方。その一つが行政の長である自分で、もう一つが欠かせないからだ。安倍氏との協調を軸に政策課題の落としどころを探つ、「もう一つの中心がない」と漏らす言葉が意味する。

崩れた「橙円」調整型に限界

担任検印

橙円とは (数学Ⅲ、新課程では数学Ⅴ)

2つの定点からの距離の和が一定の2点の集合



A1: 二つの中心が必ず存在する。二つの中心が必ず存在する。

2025年までに実現する。